

NEWS RELEASE www.jogmec.go.jp

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

問合せ先： 石炭開発部石炭開発課 望月 TEL:03-6758-8187
 広報担当： 総務部広報課 西川 TEL:03-6758-8106

海外炭開発高度化等調査成果報告会を開催

～海外炭の動向に関する最新調査情報等の提供～

JOGMEC(本部:東京都港区、理事長:河野博文)は、6月6日、本部において、海外炭の動向に関する最新調査情報の提供と海外地質構造調査等の石炭資源開発業務を報告する「海外炭開発高度化等調査成果報告会」を開催しました。

JOGMECは、海外炭の安定的供給確保に資するため、主要産炭国の鉱業政策、石炭生産動向及び輸送インフラ整備状況、主要消費国の石炭消費及び輸入動向など、海外炭に関する最新の情報収集、分析及び調査を毎年実施し、民間企業等に提供しています。

石炭は、地政学的リスクが化石燃料の中で最も低く、安定供給性や経済性に優れたベースロード電源の燃料として再評価されています。また、鉄鋼の原料である優良な原料炭の確保についても、我が



国産業の基幹と震災復興を支えるものとして極めて重要ですが、原料炭は希少かつ偏在し、獲得競争は激化しています。このような事業環境において、JOGMECは海外炭の安定的供給確保のため、石炭資源開発支援業務を行っておりますが、石炭資源開発においては、輸送インフラリスク、労務リスクなど固有のリスクが存在しています。本調査については、民間企業の投資を支援するため、民間企業のニーズを十分把握し、最新の石炭事業動向を踏まえ、独自でテーマを決定し、毎年実施しています。

本報告会では、世界の石炭事情調査等、海外炭開発高度化等調査9テーマに加え、海外地質構造調査、JV調査、クリーンコールドタウンの3テーマを対象に成果を発表しました(各テーマの概要は次頁を参照)。報告会には経済産業省資源エネルギー庁、オーストラリア大使館、コロンビア大使館、モンゴル大使館をはじめ、資源エネルギー関連会社、鉄鋼会社、電力会社、商社等、総勢170名の石炭事業関係者が参加する盛大な報告会となりました。

JOGMEC 理事の辻本による開会挨拶では、「石炭の原燃料としての重要性が高まってきている一方で、シェール革命、中国経済の成長鈍化等の影響から、足元の石炭価格が軟化基調にあり、投資環境は厳しさを増しておりますが、こうした時こそ優良資産を取得できるチャンスとも考えられますので、JOGMEC の石炭資源開発支援に係る様々なツールをご利用いただければと考えております。」という言葉があり、各発表後には活発な質疑応答が行われました。

JOGMECは今後も本調査の実施により、民間企業等に有益な情報等を提供したいと考えています。

また、石炭資源開発支援業務については、皆様からのご要望、ご意見等を踏まえ、情報提供の強化を含めた開発支援ツールをより一層充実していきたいと考えています。

■ 各テーマの概要

平成25年度 海外炭開発高度化等調査成果報告会

日時：平成26年6月6日（金） 9:20～16:50

場所：東京都港区虎ノ門2-10-1虎ノ門ツインビルディング 地下1階 大会議室

NO.	件名	予算費目	調査概要	発表者
09:20～09:30 10分	挨拶			
9:30～10:00 30分	1 世界の石炭事情－2013年度－	海外炭開発高度化等調査	世界の石炭需給動向の他、主要石炭生産国及び主要石炭輸入国等における各種石炭関連情報を網羅的に調査し、世界全体及び国別（17カ国）で整理した。	石炭開発部 吉田
10:00～10:30 30分	2 インドネシア石炭鉱業事情	海外炭開発高度化等調査	インドネシアにおける、石炭の需給動向、鉱業法制度、生産能力、輸送インフラ能力等、石炭に係る最新情報をまとめた。	石炭開発部 秋月
10:30～11:00 30分	3 ニュージーランド石炭鉱業事情	海外炭開発高度化等調査	ニュージーランドにおける、石炭の需給動向、鉱業法制度、生産能力、輸送インフラ能力等、石炭に係る最新情報をまとめた。	石炭開発部 奥園
11:00～11:30 30分	4 世界の原料炭供給ソースとアジア太平洋地域への輸出力調査	海外炭開発高度化等調査	世界の原料炭生産国の輸出力について、原料炭生産国の既存炭鉱、新規炭鉱及び開発計画にある炭鉱プロジェクト、輸送インフラの輸送能力並びに輸出国が抱える課題等を総合的に調査した。また、世界の原料炭輸出国の輸出力を調べるとともにアジア太平洋地域への現在及び将来にわたる輸出力を調査し、検討した。	一般財団法人 石炭エネルギーセンター 上原
11:30～12:00 30分	5 中国における石炭需給動向と見通し及びその影響調査	海外炭開発高度化等調査	世界の石炭マーケットに大きな影響を及ぼす中国の石炭需給動向・輸入動向及び石炭業界に係る動き等を調査し、我が国への石炭供給に及ぼす影響を検討した。	株式会社エイジウム研究所 川端
12:00～13:15 75分	昼休憩（12:00～13:15）			
13:15～13:45 30分	6 ロシア・極東及びサハリン州における石炭輸出ポテンシャル等調査	海外炭開発高度化等調査	世界第3位の石炭輸出国であるロシアが積極的開発を進める極東及びサハリン州における石炭に係る政策、炭鉱開発・インフラ整備状況等を調査し、石炭輸出ポテンシャル等について評価・分析した。	JFEテクニサー株式会社 福田
13:45～14:15 30分	7 コロンビアの我が国及びアジア市場への石炭輸出ポテンシャル調査	海外炭開発高度化等調査	今後の我が国への石炭安定供給ソースとして期待できるコロンビアのエネルギー政策、石炭政策、投資環境、輸送インフラも含めた石炭開発・生産状況、今後の開発計画及び輸出動向の調査・分析を行い、コロンビア炭の我が国及びアジア市場への輸出ポテンシャルを検討した。	石炭開発部 奥園
14:15～14:45 30分	8 東南アジア諸国における石炭賦存状況と輸出ポテンシャル調査	海外炭開発高度化等調査	東南アジア諸国において国内炭鉱の開発が進み、良質炭が開発されることになれば、輸出可能性あるいは本邦企業が有望鉱区での開発に参入する可能性も出てくることから、東南アジア諸国の石炭賦存状況、炭質、開発状況、インフラ、鉱業法、需給動向等を総合的に調査し、各国の輸出ポテンシャルを評価した。	日鉄鉱コンサルタント株式会社 河口
14:45～15:00 15分	休憩（14:45～15:00）			
15:00～15:30 30分	9 輸入炭の安定供給確保に向けての世界の選炭技術の実態及び動向調査	海外炭開発高度化等調査	世界の選炭技術の実態及び動向を調査し、日本の選炭技術のブラッシュアップや競争力向上に必要なステップ、並びに実現可能性について検討、評価を行った。また、豪州、米国、ドイツ、英国、南アフリカ、中国など、世界の選炭技術先進国について文献調査を行うと共に、日本が最も多くの石炭を輸入している豪州及びインドネシアについて企業訪問による実態及び動向調査を行った。	一般財団法人 石炭エネルギーセンター 遠藤
15:30～16:00 30分	10 インドネシア、モザンビーク、ベトナムにおけるクリーンコールタウン計画について	産炭国産業協力等調査	産炭各国において、石炭鉱山をコアに、石炭火力発電、石炭化学、排水処理等の関連産業を有機的かつ効率的に組み合わせ「低炭素・資源循環型炭鉱地域（クリーンコールタウン）」を創成するまでのマスタープランを策定した。	石炭開発部 齋藤
16:00～16:15 15分	11 海外地質構造調査の概要及びJV調査（クリフォード地域）	海外地質構造調査	海外地質構造調査について、従来の共同調査に加えて、海外企業と共同調査を行うJV調査制度を新設した。共同調査とJV調査の制度説明を行うとともに、平成25年度にJV契約を締結し、JV相手方と共同調査を行っているクリフォード地域の進捗について報告する。	石炭開発部 荒井
16:15～16:45 30分	12 ベトナム・モザンビーク共同調査	海外地質構造調査	ベトナムでは、国営企業VINACOMIN と共同で、バックジャン省ドンリ地域を対象に、石炭資源量の評価を行うことを目的として、既存資料の収集・解析、地質データベース構築、地質調査、試験調査、コア観察、石炭性状分析等を実施した。モザンビークでは、鉱物資源省MIREMと共同で、ニアサ州、マニカ州及びテテ州等を対象に、有望地区を選定することを目的としたリモートセンシング調査、地質調査、空中磁気探査を実施中である。	石炭開発部 大竹
16:45～16:50 5分	閉会の辞			

※当日の発表資料については以下のアドレスに掲載しております。

<http://coal.jogmec.go.jp/result/index.html>